徳山ダムで観光放流
～ウロコ模様に感動～

総貯水容量日本一の徳山ダムで、11月2日(土)～4日(月)にかけて観光放流が行われました。

秋の行楽シーズンに合わせて行われた観光放流では、10時～15時まで1時間おきにそれぞれ10分間、洪水時用のゲートを開いて、毎秒約3トンの水を放流。流れ出した水は、全長約270メートルのダム堤体斜面にウロコ模様を描きながら流れ落ちました。

来場者は、水が描く模様に感嘆の声を上げていました。

期間中は、藤橋城と徳山会館からシャトルバスが運行され、1300人の観光客が訪れてダムの放流と徳山の紅葉を楽しみました。

▲水が描くウロコ模様

恋のつり橋フェスティバル
～恋愛イベントで地域を活性化～

11月2日(土)、「恋のつり橋」(久瀬地域)で恋のつり橋フェスティバルが行われました。

揖斐川に架かるこの橋は、長さ約80メートルの木製のつり橋で、周辺には、鐘や結ばれ地蔵などがあり恋愛成就のパワースポットとして人気を博しています。

久瀬まちづくり協議会の主催で行われたこのイベントでは、恋愛に関するステージや結婚のカップルを祝福する催しがあり、若者や家族連れで賑わいを見せていました。

この日、結婚を披露したのは、久瀬診療所の医師、横田修一(よこたしゅういち)さん夫妻で、三三九度などの儀式を行った二人に大勢から祝福の拍手が送られました。

また、会場ではバザーや演奏会も行われ来場者を楽しませていました。

▲結婚を披露した横田さん夫妻

紅葉(こうよう)の名所でもみじまつり
～谷汲山華厳寺・両界山横蔵寺～

紅葉の名所として知られる谷汲山華厳寺(町営駐車場)と両界山横蔵寺でもみじまつりが行われました。

11月10日(日)に開催された谷汲もみじまつりは、生憎(あいにく)の雨となりましたが、多彩なステージイベントなどが行われ、多くの人で賑(にぎ)わいました。

また、この日会場では、谷汲門前町のキャラクター「いのりちゃん(※表紙で紹介)」の着ぐるみが初めて披露され、子どもたちの人気を集めていました。

11月17日(日)に開催された横蔵寺もみじまつりは、真っ赤に染まった紅葉(もみじ)が来場者を迎え、太鼓演奏などで会場を盛り上げました。

また、横蔵寺では、11月1日(金)～30日(土)の期間でライトアップが行われ、多くの見物客が鮮やかに浮かび上がった紅葉(もみじ)を楽しみました。

▲真っ赤に染まった横蔵寺の紅葉

揖斐高ショップ開店
～人気商品売れ行き上々～

11月16日(土)、揖斐高校の普通科情報コースの三年生が運営する揖斐高ショップがJAいびがわフェスタの会場(中央公民館)で開店しました。

この揖斐高ショップは、揖斐高起業家育成プロジェクトの一貫で毎年開かれており、生徒らのコミュニケーション能力の向上やマーケティング調査などを目的にしています。

一日限りの揖斐高ショップでは、生徒がパッケージを考案したうどんこんにゃくや、豆乳ドーナツ、手芸商品などがずらりと並び、来場者の注目を集めていました。

こんにゃく商品に、オリジナルのレシピを付けたり、ゼリーのつかみどり販売を行うなど、高校生らしい工夫がみられ、買い求める人で賑わいました。

▲商品を販売する生徒

赤い電車まつり
～ひっぱれ赤い電車～

11月17日(日)、旧名鉄谷汲駅周辺で谷汲を駆けた赤い電車をモチーフにした「赤い電車まつり」が行われ、約2500人の来場者で賑わいました。

名鉄谷汲線は2001年に廃線となりましたが、2002年に市民グループでつくる「赤い電車友の会」を中心に赤い電車、2006年には赤白電車を旧名鉄谷汲駅で保存展示しています。

メインイベントの「ひっぱれ赤い電車」では、子どもからお年寄りまでが、電車に付けた綱を力を合わせてひっぱり、約80メートルを往復しました。

電車が動き出すと、会場からは拍手と歓声が沸き起こり、盛り上がりを見せました。

また、会場では、演奏会や農産物の販売なども行われ来場者を楽しませました。

▲電車ファンで賑わう会場

秋の城台山公園と揖斐川の町並みウォーキング

11月23日(土)、秋の城台山公園と揖斐川の町並みウォーキングが行われ約400人が参加しました。

この催しは、町の自然や歴史を巡り、揖斐川の町並みの魅力を再発見することを目的として行われています。

スタート・ゴール会場は、揖斐川町役場で、参加者は、全長約7キロメートル、所要時間2時間半のコースを楽しみました。この日は、爽やかな秋晴れで、参加者は美しい景色を眺めながら、コースポイントの揖斐川歴史民俗資料館や三輪神社などを見学しました。

また、コース上には、豚汁や甘酒のサービスコーナーなどがあり、参加者は秋の揖斐川町を満喫しました。

▲ウォーキングを楽しむ参加者

アイガモ農法で育てたお米を寄贈
～清水小学校5年生～

11月25日(月)、清水小学校の5年生25人が、養護老人ホーム揖斐川尚和園(しょうわえん)を訪れ、児童らが「アイガモ農法」で育てたお米（125キログラム）を寄贈しました。

清水小学校では、5年生の児童が総合的な学習の時間に、近隣農家の協力を得て田植えから収穫までの体験学習を毎年行っています。

児童らは、イラストで田植えから脱穀までの体験話や、アイガモ農法について紹介しました。

「農薬を使わないアイガモ農法で育てたお米を食べてください」と入所者に手渡しました。

▲アイガモ農法を紹介する児童

原子力防災訓練
～原子力災害に備えを～

12月1日(日)、岐阜県主催の原子力防災訓練が、緊急時防護措置準備区域（原発から概ね30キロメートル圏内）の坂内川上地区の住民を対象に行われました。

この防災訓練は、原子力災害時における防災体制の確認や関係機関の連携体制の強化を図る目的で実施されたもので、揖斐川町では、地域住民や岐阜県職員、町職員など総勢150人が訓練に参加しました。

美浜原発（福井県）の事故を想定したこの訓練では、災害本部（県庁）とのテレビ会議や安定ヨウ素剤の模擬配布、避難場所の中央公民館ではスクリーニング（身体表面汚染検査）が実施されました。

▲スクリーニング訓練の様子